

ある日
故郷のエルフの里から
長老のおじ様が
危篤との知らせが
入った
子供の頃から私たちを
我が子のように育てて
くれたおじ様の
大事と会って
私は急いで
故郷へと戻った

ふう

静かだ

もうほとんど
エルフは住んで
ないんだろうか

ユウナ殿

手紙を読んで
飛んできました

おじじ様の
ご様子はいかに？



4〜5日前から
様態が急変し
もう打つ手はないかと…

長老
ユウナ様が
戻られましたぞ

おお：
待つとったぞ



おじじ様
ご無沙汰して
おります

久しぶりだな
元氣そうだな
会えてうれしいぞ

あまり
しゃべられると
お体に障ります



ふっふ：
自分の身体じゃ

自分の最後くらい
自分でよく分かる

そんな気の弱い
事を言われては：

まあ
聞け



今やこの地に残った
エルフはわしをはじめ
わずかな老エルフ数人のみ

時代の流れには
逆らえん：わしはこの
生まれた地で死ねれば本望じゃ

もう…里を

出ていった者たちとは会うこともないと思っていたが

最後にまた
お前に会うことが
出来た：これも神の
ご加護じゃろう：



お前も
見ただろう
この里の現状を

昔はここは
エルフが大勢いて
賑わったものだが
やがてお前たち
若いエルフたちは
外の世界を夢見て
みなこの里を去ってしまった



さあ
ユウナ

わしに
その顔をよく
見せておくれ

おお
かわいいのう

ひさしぶりじゃの…
この手触り

なで

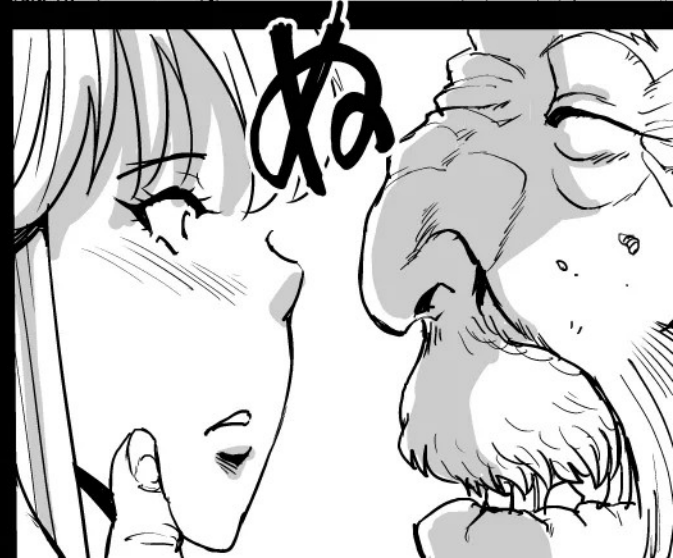
なで
なで

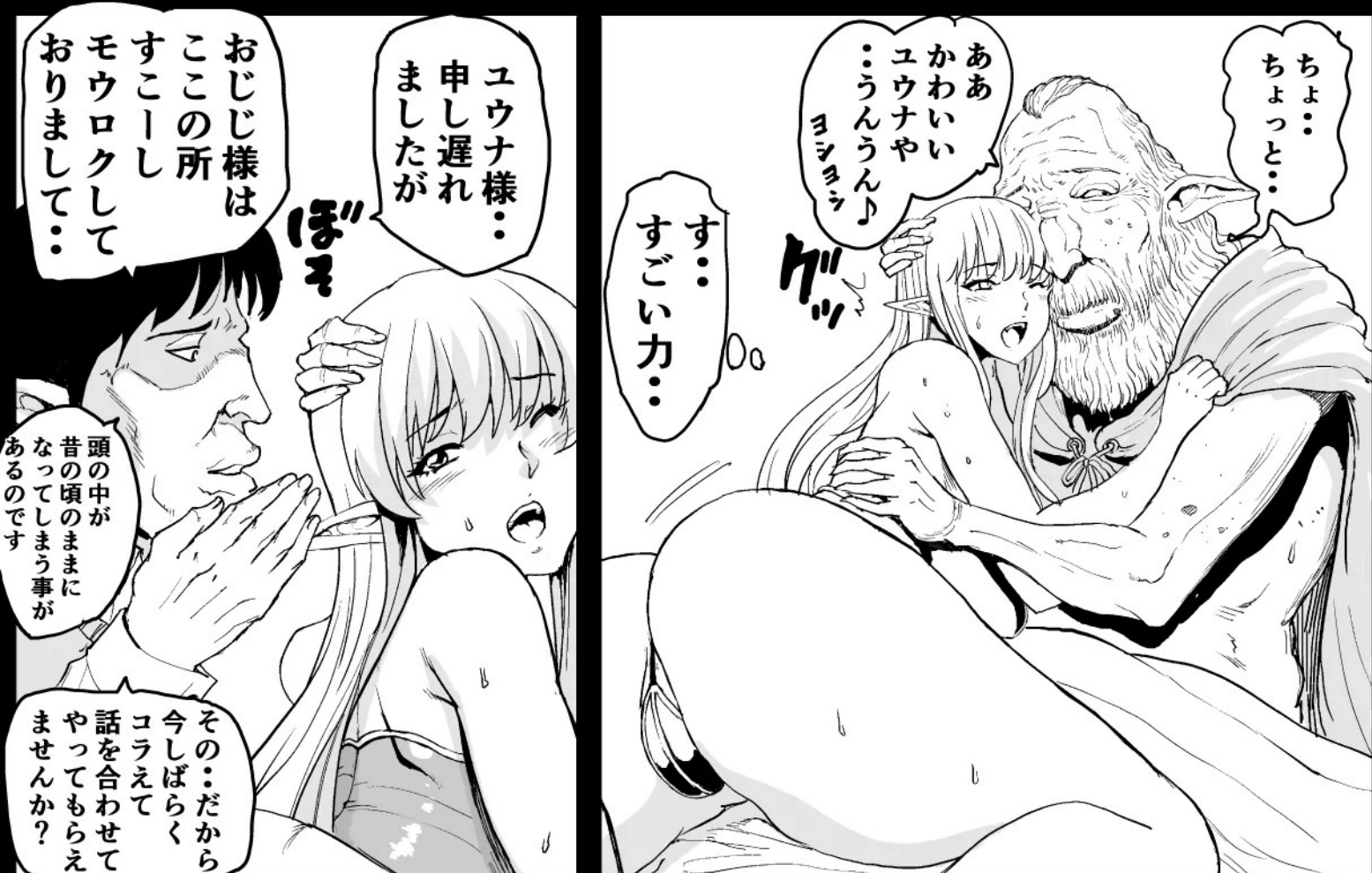
アル

アル

アル

ほんと…
あの頃を思い出す
ようじゃ





わしは
今聴きたい

お前が
笛を取りに行く
わずかな間が
永遠の別れになってしまう

そう思えて
ならんのじゃ
ごぼごぼ

ああ：
目の前が暗くなって
きた気がする

幸いここに：

バーサ

代わりになるものがある

おれんぽろ

これで
吹きなさい

あ：

ユウナ様：
ここはコラえて！

おじ様
最期のわがままです

「音」は私が
何とかしますから

ほら

おじ様の
あの表情を
御覧なさい

まるで童心に
帰ったような
幸せそうな顔を
してらっしゃる
ではないですか







